

【今月のベトナム総論】

今月はアジア圏では旧暦の正月「旧正月」を祝う国が多く、中国・中華圏では「春節」と呼ばれているのはご存知の通りです。

ベトナムではこれを「Tet(テト)」と呼んでおり、日本人の間では「テト正月」などと呼んでおります。

他国同様、この正月には皆、生まれ故郷に帰省して一族郎党で集まり新年を祝います。



(ベトナムの旧正月「Tet」に「お年玉 (Li Xi リーシー)」を渡す風景)

この場でどのくらい、「お年玉 (Li Xi リーシー)」を配れるか、はベトナム人にとって極めて重要です。一人一人の金額はそれほど多くなくとも、ベトナムの場合、すごい人数が集まるのと、子供だけではなく現役世代がリタイアをした年長者にも配りますので、この負担はなかなかのものです。

多くの企業ではテト休暇の前に1ヶ月分以上の「テト賞与」を配布するのが「慣習」となっていますが、この賞与の大半がお年玉で消えてしまう従業員も少なくないとも聞きます。

このテト正月で田舎へ帰ったまま、都会の職場に戻ってこない従業員がいまだに非常に多く、対策としてテト賞与を「テト前とテト後で半分ずつ渡す」ことできちんと職場に戻ってくることを促す企業もありますが、このような施策はやはり従業員には不評で、一旦は賞与の半分を受け取りに戻ってきますが、「ケチな会社だ」という印象ができてしまい、結局は年度中に転職されてしまったりもしますので、まあ、効果の方も「半分くらい」という感じかな、と思ったりします。

【今月の「ピックアップニュース」】

「レイオフされた労働者、テトに帰郷せず都会で仕事を探す」

(2023年1月19日 VnExpress)

(原題: "Furloughed workers stay back for Tet to seek jobs")

上述のようにテト休暇に帰省することはベトナム人にとって大変重要なことなのですが、今年をあえて出稼ぎ先の都会に残って仕事探しをする人も多いそうです。

2022年後半、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギー価格の悪化などで欧米のエネルギー価格高騰、それに伴うインフレ、そして景気悪化によって、ベトナムへの発注が減少しており、ベトナムの輸出型産業は大きなダメージを受けています。

特に衣料品や繊維、履物、電子機器などは、今後も受注が減少することが予想され、すでに大規模なレイオフや労働時間の短縮措置が行われています。

こちらの記事でも、かつては毎日残業があったのに、それがなくなり、さらには勤務日自体が週5日から2、3日に減ってしまい、最終的にはレイオフされてしまった男性の話が出ています。



(仕事を終えて帰宅する工場労働者。南部ビンズン省/写真：VnExpress)

結局、彼はテト正月も田舎に帰らず、都会に残って仕事探しをするそうです。

この記事だけを読むとベトナムは不景気で失業者で溢れているように思いますが、一方で、北部では中国から工場移管をしてくる電子機器、I T 機器の製造業が続々と進出しておりワーカー不足の地域もございます。

従来、軽工業が中心の南部と I T 産業や電子機器、自動車産業などが多い北部では労働者の需給バランスに違いが出ているようです。

【最後に】

ベトナムの 2022 年の実質 GDP 成長率（推計値）は前年比 8.02% という非常に良好な数字でした。

2023 年も残念ながらロシアとウクライナの衝突は続き、欧米の景況感も当面は厳しそうですが、中国からの生産移管需要などの手堅い需要があるベトナムは、それなりの明るさを持って新年度を迎えているように思います。

ぜひ、今年も良い経済成長となって欲しいところです。

以上